

1 限目

しくじりポイント

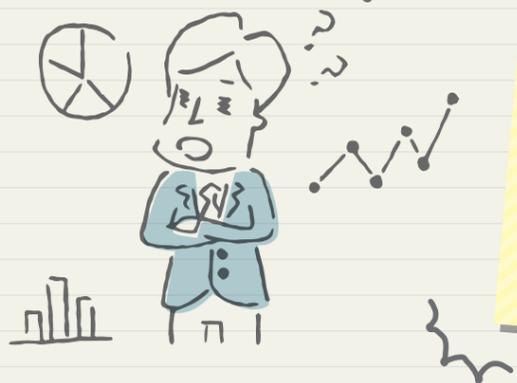
NG 担当者が**自分しか**いない…

導入したはいいものの、
誰からも協力を得られず、
1人で頭を抱えて
悩んでいます…



しくじりポイント

NG 利用の**目的が曖昧**

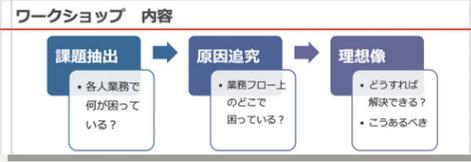


業務効率化ができる
kintoneを導入して、
それだけでもう
満足してしまっています…

← 教訓は次ページに!



当コーナーでは、kintoneユーザーのセンパイたちが、
「kintone導入をしくじらずに成功してほしい」という熱意から、
導入1ヶ月目のkintone管理者が陥りやすい、しくじり体験をもとに教訓をお伝えします。
みなさんも導入してから「なかなか浸透しない…」
なんて思い当たるフシはありませんか？



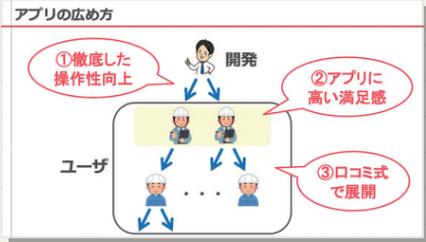
みんなで課題と理想を共有することで、目的が明確になったんだなあ。いいチームができそうだなあ。

現場からの反発を解消した ワークショップが成功の決め手に

属人化したExcelの書式を統一することを検討したところ、現場からは否定的な声があった。そこで現場が本当に困っていることが何なのかを把握するべく、新たな手法を取り入れることに。それが、現場の方を集めて開催したワークショップだった。そこで明らかになったのが、情報の検索や共有といった、情報活用に関する要望だった。貴重な情報は、実は各現場において（ノートに作成する）日誌内に記載されていることが多く、またExcel内に情報があっても、現場担当者のPC内に保管されてしまうとノウハウが共有されず、他の現場に生かすことが難しい。その部分が大きな課題だった。

タブレット普及率の 高い部門からスタート、 口コミでファンを広げていく

さらに、展開の仕方や現場への広げ方に工夫が施されている。まずはkintoneに慣れてもらおうべく、現場でのタブレット普及率が一番高い部門から運用をスタート。社内の問い合わせ窓口を設け、何かあればいつでも相談できる体制を整えたことも現場への浸透に大きく役立った。さらに、現場へうまく展開していくために、「二に長けた数人の人材をテストランの対象として運用してもらい、現場にkintoneのファンを増やしていくという仕掛けも。」実際に慣れた人が次の現場に赴任した段階で、同じ部署の人に口コミで使いやすいさを全力で伝えてもらい、全体的に広めていきました」とセンプイは語る。



仲間になってくれそうな人から
少しずつ巻き込んでいったんだなあ。

1 限目の教訓

仲間を作ろう

kintoneはチーム導入をオススメしています。チームを進めると、浸透も早い！

目的を明確にしよう

kintoneを入れただけでは課題は解決できません。まずは導入の目的を明確に！

その1 センプイに学ぶ！ kintoneの社内浸透

そうは言ってもどうすれば…
というあなたに！

地盤改良や建設基礎、構造物の耐久性向上など、地下に関するさまざまな工事を手掛けているケミカルグラウト株式会社。導入前、事務作業で属人化したExcelが大量に生まれ、3ヶ月〜1年ごとに新たな担当者がそれを触ることになり、慣れるだけでも大変な労力。結果として事務作業の負担が大きなものになっていった。そこで、施工現場の業務改善に関するプロジェクトを推進する過程で、現場の資料作成を効率化すべくkintoneを導入、まさに「業務の改良」をも成功させた。現場からの反発をワークショップで解消し、効果的な口コミで現場へ展開するなど、特徴的な業務改善に取り組んだ背景やkintone採用の経緯について、お話を伺った。

結果
年間24日の工数削減、
離職率も0%をキープ

今では業務改善の基盤としてkintoneが現場に根付いている。現在は、社員のおよそ半数にあたる150名ほどが日報アプリを中心にkintoneを活用。年間24日ほどの工数削減に寄与。結果として長時間労働の解消につながり、今では若手社員の離職率も導入後3年ほど0%をキープしている状況だ。

仲間は会社の外にもいるんだなあ。

パートナーサービスの活用も成功を支えた

今回、月額課金型のシステム開発を手掛けるディベロッパーとして株式会社ミューチュアル・グロースが参画し、ワークショップの開催やアプリ開発支援を行っている。「現場の運用で分からないことがあれば、現場に同行いただいて実際に見てもらおうなど、親身になって対応いただきました。我々のニーズを的確にくみ取っていただき、感謝しています。他の部署へ展開する際にもぜひご協力いただければと思います」とセンプイは高く評価。



技術本部 技術開発部
小野 一樹 センプイ



【業務内容】 地盤改良
(地盤の改良、耐震補強、土壌浄化など)

【利用用途】 日報・報告書、施工仕様、数量表、
トラブル対応、現場検索、フィードバック

2限目の教訓

時間をかけて100点満点を
目指すのではなく、75点を
目指して素早く実現しよう

kintoneは小さくはじめて大きく育てるのがコツ。運用中でも日々カイゼンできます！

そうは言っても
本当に満点を目指さなくていいの...?
センパイに聞いてみよう

その2
センパイに学ぶ！ kintoneの社内浸透

kintoneは、
スピードとコスト感
では負けません！

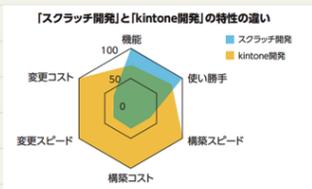


京王電鉄株式会社
経営統括本部 デジタル戦略推進部長
兼 感性AI株式会社 代表取締役社長 CEO
兼 株式会社京王ITソリューションズ 取締役
虻川 勝彦センパイ

100点ではなくても、素早くシステムが
できれば様々な業務が改善できる

「その視点に立つとユーザの業務がこう変わっていくことができるようになったとか、お客様への対応がこう変わったなどが明確に見え、喜んでもらえていることが分かち合えます。最終的に顧客満足度・従業員満足度を上げていく支援

をすることが我々のミッションだと考えていましたので、kintoneの高い生産性のおかげで次々と新しい目に見える改善ができていく充



最初から100点じゃなくても、「もっとこうしたい」を素早く反映して、100点に近づけていくこともできるんだなあ。

しくじりポイント

2限目

NG 100%完成 してからの
リリースを目指している



現場の要望をすべて反映した
完璧なアプリを作ってから
使おうとしたけど、
なかなかスタートできません...

kintone導入してから
間もない管理者あるある

しっかり作り込まれた
アプリじゃないと、みんなに
受け入れられないんじゃ
ないかと思ってしまう...

色々な用途に使えることは
知ってるけど、時間がなくて
結局まだ何の用途でも
使っていない...

3限目の教訓

3限目

アプリを使う**現場の人の声**に
耳を傾けよう

「使いづらい」を放置しない。
現場の声に耳を傾けることは、更なるカイゼンのチャンスです！

しくじりポイント

NG
アプリが**使いづらい**...



現場からのクレームは宝の山

そのうちに「こんな情報をうまく管理できないか？」という相談や提案も上がるようになり、今では社員たちと共にシステムを育てているような感じですよ！

「当社は率直にモノを言う風土なので『使いにくいから何とかしてくれ』という声も多く上がりました。

現場からのクレームは宝の山とクレームから素早くシステム化することで、「一緒に作り上げていく」という利益実感をもたらす努力を続けていったら、普天間センパイは語る。



中島工業株式会社
BIリーダー
普天間大介 センパイ

不満や要望を言ってくるみんなも、業務をよりよくしたい想いは一緒なんだよなあ。

その3 センパイに学ぶ！ kintoneの社内浸透



元気でんき株式会社 代表取締役
河川エレキテル センパイ

「@システム問い合わせ」のメンション機能を用いることで、改善要望はすぐに管理者に伝わる。

コメントでアプリ改善

改善要求をコメント欄に書き込むという単純な方法だが、とにかく思い立ったらすぐに記入するのがルール。アプリのどのコメント欄でも記入OKにしたという。これらを持ったシステム改善チームがコメントを読んだら、簡単な改善はすぐに対応し、開発が必要なものはパートナーであるウィルビジョンにお願いしている。

「一番いいのは現場で改善意識が育つこと。改善するんだ、言えば変わるんだ」ということを体感してもらったことで、現在までに548件の改善が行なわれているという。とにかく「みんなですぐに使いやすくしよう」は元気でんきのkintone活用の一貫している思想だ。

※(株)角川アスキー総合研究所のWebサイト「ASCII.jp × kintone」内の記事を抜粋掲出しています。

業務の流れに合わせてレコードが入力できない…
入力項目に合わせて、画面を上下にいたりきたりします…

kintone導入してから間もない利用者あるある

入力する項目が多すぎて、どこを入力すればいいかわかりづらいです…

アプリの要望はいっぱいあるのに管理者さんに伝える機会がありません…



利用者にアプリの目的や注意事項を
分かりやすく伝えるために **その2**

アプリのラベルを使ってみよう!

「ラベルフィールド」を利用すると、フォームに見出しや説明文を表示できます。
利用者がアプリへ迷わず情報入力するのをサポートする、優しく便利な機能です!



アプリ作成者なら 知っておきたいラベルの活用術4選

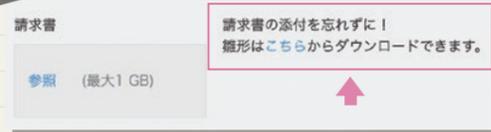
その1 見出しとして活用



その2 近接するフィールドの説明や補足として活用



その3 関連するリンクをつけて活用



その4 アプリの最初に設置して目的や補足として活用



設定方法



1 レコード一覧画面の右上の設定アイコン をクリックします。

2 フォームの編集画面でラベルを追加します。

3 ラベルの横の から[設定]をクリックし、文字の大きさや色などを入力し、設定しましょう。

3 画面右下の[保存]をクリックします。

4 画面右上の[アプリを更新]をクリックし、[OK]をクリックします。

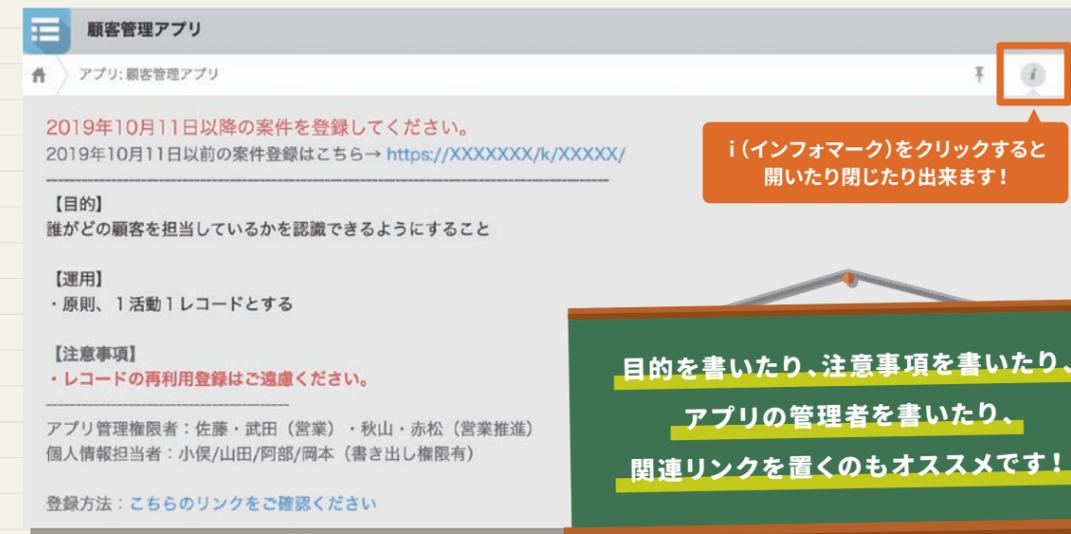
利用者にアプリの目的や注意事項を
分かりやすく伝えるために **その1**



アプリの説明を使ってみよう!

「アプリの説明」とは、アプリを開いたときに表示される情報です。

例えば「あれ? アプリにどうやって入力すればいいんだっけ? アプリの管理者って誰だっけ?」
と思ったりする事、たまにありませんか? そんなときに誰もがパッと見てわかる
“トリセツ”が該当のkintoneアプリに用意されていると、利用者にとってはとても便利なんです!



目的を書いたり、注意事項を書いたり、
アプリの管理者を書いたり、
関連リンクを置くのもオススメです!

設定方法



1 レコード一覧画面の右上の設定アイコン の横の をクリックし、「一般設定」の[アイコンと説明]をクリックします。

2 「アプリの説明」で、アプリの目的や使い方を記載します。

3 画面右下の[保存]をクリックします。

4 画面右上の[アプリを更新]をクリックし、[OK]をクリックします。